

大阪府の橋下徹知事が提唱する「大阪都構想」を識者はどうみるのか。橋下知事ブレーンで都構想を理論的に支える上山信一・慶応大教授と、論文『『大阪都』の基礎研究』で都構想批判の論陣を張る村上弘・立命館大教授に聞いた。(聞き手・社会部 祝泊博) <⑩なぜ統一地方選するの35面>

上山信一・慶大教授



自治のカタチ

第1部

大阪都構想 ⑩

村上弘・立命館大教授



資産の有効活用を加速

— 都構想の意味は

大阪再生のための一つの手法だ。実現すれば大阪市の膨大な資産の有効活用が可能で、交通インフラなどの投資を加速できる。3000票余りで当選する議員による大阪

市議会の利権誘導型の政治も変えられる。司令官が一人になると中央との政治折衝力も増す。

— 議員が所属する地域政党の長を、首長が兼ねれば、独裁の懸念がないか

自治制度は実情に応じて地

識者に聞く

— 都構想の評価は

大阪、堺両市を特別区に解体し、政令市としての権限や資産、税源の一部を府が吸収するのは地域主権の否定で地方分権に逆行する。大阪市の行政コストは政令市平均の1

2割高い程度だ。一人のリーダーに権力が集中し、政策推進のエンジン数が減るデメリットの方がずっと深刻だ。橋下知事は、広域行政の司令官は一人でないに進まないとの主張だ。現代の政策は議論と調整が

域が決めれば良く、一國多制度が望ましい。今の大阪には地域再生が緊急課題で一元代表制が適切だ。

— 大規模都市整備や成長戦略など、現制度でも府市協調で実現できないか

歴代首長や経済界が何年も議論したが、進まなかった課題だ。府市の協議や現行制度でできることは全部やった。批判する方々には代わりの大

必要で、リーダー一人の直感で進めるべきでない。「財布を一つにした」夫婦が、賢い買い物をするとはいえない。

— 都構想の代案は

今までの枠組みでも、関西空港建設やJR大阪駅北側の北ヤード開発は進んできた。例えば関空へのアクセス改善でも、都構想は地下鉄なかわ筋線建設を主張するが、府市がJRに関空快速の高速化を

阪再生案を示してほしい。残された時間はもうないのだ。

— 橋下知事の政治手法は

脇手的で危険との指摘がある受け手の主観の問題だ。知事を支持する人は強いリーダーシップに期待する。秩序無視との批判も、従来の枠組みにとらわれない勇気だと言いつい換えられる。彼くらいの突破力がないと大阪の改革はできない。

求める方が現実的だ。

— 知事の政治手法をどうみるか

敵を設定して攻撃し、注目と支持を集めるポピュリズム(大衆扇動政治)だ。「大阪を変えるか、変えないか」でなく、「大阪を乱暴に変えるか、賢く変えるか」が争点になるよう、対抗勢力はもっと対案を発信してほしい。

リーダー一人分権逆行

(おわり)